

○オキファスト注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 オキシコドン塩酸塩水和物 oxycodone hydrochloride hydrate 【分類】 麻薬性鎮痛剤

【単位】 ▼10mg/A [1%1mL]・○50mg/A [1%5mL]

【常用量】 7.5～250mg/日

■初期量は7.5～12.5mg/日

■レスキュードーズは1日量の1/24

■漸増幅は前日量の25～50%増を目安

■モルヒネからの切り替えはモルヒネ量×1.25

■経口オキシコドンからの切り替えは経口オキシコドン量×0.75

■経皮フェンタニルからの切り替えは剥離後の濃度低下を勘案して本剤を低用量から開始

【用法】 持続静注または持続皮下注

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【その他の報告】 ターミナル期の呼吸困難に持続皮下注を選択した場合の開始量は3～4mg/日を提案 (栗屋牧子, 他: 透析会誌 52: 343-348, 2019)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (1)

【特徴】 オキシコドンの注射製剤。経口オキシコドンからは75%量で切り替えるのが標準的。

【主な副作用・毒性】 ショック, アナフィラキシー, 依存性, 呼吸y特性, 錯乱, イレウス, 肝機能障害, 傾眠, 便秘, 嘔気, 血圧変動, 食欲不振, 発熱など

【安全性に関する情報】

【F】

【tmax】

【代謝】 CYP2D6 および3A4 で代謝 (1)

【排泄】

【t1/2】

【蛋白結合率】

【Vd】

【MW】

【透析性】

【O/W 係数】

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20191010

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。